

<平成 27 年度>

## 健康部 長寿社会推進室の取り組み実績

### I 重点施策・事業

#### ◆成年後見制度利用支援事業の拡充

認知症高齢者及び障害者等が必要に応じ成年後見申し立てを円滑に行えるよう、制度の説明や制度利用について引き続き支援するとともに、市長の審判請求が必要で、後見人等への報酬を負担することが困難である場合、これを助成し権利擁護を図ります。

#### 実績

・長寿社会推進室、各高齢者サポートセンター等において、制度の説明や支援を行ない、4件の市長申し立てを行った。

#### ◆地域包括ケアシステムの構築

高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるように、高齢者本人のニーズに応じた住居のもとで、医療、介護、介護予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に向け、多様な関係機関の連携のもと、以下の取り組みを進めます。

- ①在宅医療・介護連携の推進
- ②地域ケア会議の推進
- ③認知症支援策の推進
- ④介護予防・生活支援サービスの基盤整備の推進



また、安否確認や急病等で支援を要する人を早期に発見できるよう「高齢者見守り110番」や「徘徊高齢者 SOS ネットワーク」など地域での支援の強化を図ることで、ひとり暮らしや認知症高齢者の人が安心して暮らせる仕組みづくりをさらに進めます。

### 実績

- ①在宅医療・介護連携の推進  
保健・医療・介護・福祉等の円滑な相互連携に向けて、地域ケア推進実務者連絡会議及び作業部会（認知症初期集中支援チーム検討部会 2 回、多職種連携会議作業部会 7 回）を計 11 回開催した。
- ②地域ケア会議の推進  
ケアマネジメントの質の向上を目的とした自立支援型地域ケア会議を計 12 回開催し、医療や介護の専門職等の多職種による検討会議を行った。
- ③認知症施策の推進  
・認知症サポーター養成講座を 77 回開催。受講者数 3,308 名。  
・12 月より認知症初期集中支援チームを 2 医療機関に設置し、4 件のチーム員発動を行った。  
・認知症ケアパス作成（平成 28 年度配布）
- ④介護予防・生活支援サービスの基盤整備の推進  
関係事業者等と意見交換会を毎月開催する。また、第 1 層協議体を設置し、地域で活動している団体を含めて協議しながら事業案を作成した。  
・「高齢者見守り 110 番」は協力事業所数 713 店舗となり、54 件の通報があった。  
・「徘徊高齢者 SOS ネットワーク」は 260 人の登録があり、18 回の発動があった。

#### ◆高齢者サポートセンター（地域包括支援センター）の機能強化

高齢者の抱える課題は、年々多様化・複雑化しています。これらに対応すべく、センターの運営体制強化や職員のスキルアップなど総合的な相談・調整機能強化に取り組みます。

## 実績

- ・高齢者人口を勘案し、各センターにおいて1若しくは2名の職員の増員を行った。また、専門職による部会を毎月開催する事により職員のスキルアップに繋げた。21, 121 件の相談があった。

### ◆介護予防事業の推進

高齢者が介護予防や健康づくりへの意識の高揚と継続的な取り組みができるよう、身近な場所で開催する介護予防教室等をさらに充実するとともに、要介護状態等の軽減や重度化防止を一層推進するため、リハビリテーション専門職等による「自立支援」に資する取り組みを実施します。また、地域の介護力を高めるため、「ひらかた生き生きマイレージ事業（介護予防ポイント事業）」を充実します。

## 実績

- ・運動や口腔、認知機能の向上を目的とした介護予防普及啓発事業を、計949回開催した。参加者は、延べ13,469名。
- ・身近な地域での自主的な介護予防の継続した取り組み支援について、地域リハビリテーション活動支援パイロット事業として「ひらかた元気くらわんか体操モデル事業」を6グループで実施した。参加者86名。
- ・ひらかた生き生きマイレージ事業は3回の新任者研修を行い、登録者数は186人となり、146人の方がサポーターとして知識や経験を活かした活動を行った。

### ◆地域密着型特別養護老人ホームの整備

「ひらかた高齢者保健福祉計画 21（第6期）」に基づき、今後3年間に5か所の地域密着型特別養護老人ホームの整備に向け取り組みを進めます。

## 実績

- ・地域密着型特別養護老人ホームの整備を行う事業者の公募を行い、2か所の圏域で、整備事業候補者を選定した。

## II 行政改革・業務改善

### <改革・改善サイクルに係る対応>

事務事業	取り組み内容・目標
高齢者鍼灸マッサージ事業	平成 26 年度から施術時間や助成額などの事業内容の見直しを行った。利用者数や利用回数などについて検証を行った上で、今後のあり方について検討を行う。

## 実績

- ・平成 27 年度の利用者数は、1,179 人、利用回数は 5,514 回であったことを踏まえ、今後のあり方について検討を行った。

事務事業	取り組み内容・目標
生きがいと健康づくり推進事業(生きがい創造学園)	高齢者の生きがいづくりと社会参加を促進するため、地域における様々な社会資源を活用しサービスを提供している。公平性の観点を踏まえたうえで、より大きな効果が得られるよう事業内容について検討を進める。

## 実績

- ・より多くの方が受講できるよう平成 28 年度の講座数の拡大（通常講座 19 講座から 20 講座）に向け取り組みを進めた。

### <業務改善のテーマ・目標>

テーマ	取り組み内容・目標
満足度の高い窓口対応	窓口アンケートの実施や窓口マニュアルの活用による研修を通じて市民満足度の向上に努める。

## 実績

- ・窓口対応に関する利用者アンケートを実施する他、対応の工夫や改善について職員に周知し、市民満足度の向上に努めた。

### Ⅲ 予算編成・執行

◆介護保険特別会計では、今年度から3年間の第6期計画期間中の給付費等を的確に見込み、十分に精査を行ったうえで、予算額約278.4億円を計上しています。

#### 実績

- ・給付費は、第6期計画の見込みどおり推移しており、計画に基づき的確に執行した。

### Ⅳ 組織運営・人材育成

◆各業務の繁閑に応じて効率的・流動的な組織運営を工夫します。

#### 実績

- ・制度改正に対応するため、新制度準備グループを設置し、制度設計を行った。
- ・事務の繁忙期にはグループ間の応援体制を整えるとともに、管理職による連絡会議を適宜実施して情報共有を図り、効率的・流動的な組織運営を行った。

◆人材育成については、特定の知識や経験が求められる業務を中心に職場内研修に取り組むほか、専門研修へ職員を派遣し、知識の習得や技術の向上を図ります。

#### 実績

- ・新規配属職員に対しては、業務内容の新任研修を行い、法改正や新規業務等への対応は適宜職場内研修を行い、知識の習得に努めた。

◆職場の課題や懸案事項等は、職場会議や朝礼等を通じて全職員が共有し、その解決等に向けて組織的に取り組みます。

#### 実績

- ・グループごとに朝礼を行うなどにより、全職員が課題等を共有し、課題の達成に向けて取り組んだ。

◆災害時の緊急対応については、初期応急対策等の課題を検証し、災害対応体制の見直しを図ります。

#### 実績

- ・災害時の初期応急体制づくりの一環として、災害時の避難行動に支援が必要な高齢者や障害者を対象とした「避難行動要支援者名簿」を作成した。

### Ⅴ 広報・情報発信

◆広報ひらかた、市のホームページ、エフエムひらかた、CATV及びリーフレット等様々な媒体を活用した情報発信を行います。

#### 実績

- ・広報誌では、「ひらかた高齢者保健福祉計画21（第6期）」の策定や介護保険料の改定などについて掲載した。エフエムひらかたでは、緊急通報システム事業や徘徊高齢者SOSネットワークの施策説明を行うなど、様々な媒体を活用して市民への情報提供に努めた。

◆ホームページの特性を生かし、分かり易くタイムリーな情報を発信します。

#### 実績

- ・情報をわかり易く整理するとともに目的の情報にアクセスしやすいよう「高齢者しつとこサイト」の整備を行った。

◆地域福祉の情報発信の拠点となる高齢者サポートセンター（地域包括支援センター）との情報共有を進めます。

#### 実績

- ・高齢者サポートセンターと定期的に連絡会議を行い、情報共有に努めた。